

研究 主題	英語を正しく読み取り、自分の考えや意見を持つことができる力を育てる指導の工夫 ー 3 学年の読み物教材における発問を工夫した段階的な指導を通してー
----------	--

第3学年英語科学習指導案

指導月日 令和3年10月21日
 所属校名 亘理町立吉田中学校
 氏名 長沼 由香里

1 単元名「Unit4 Be Prepared and Work Together」（東京書籍 NEW HORIZON English Course 3）

2 単元の目標

外国人の友人が地震に備える際に手助けできることを英語で伝えるために、災害時の外国人の体験談や災害に備えた外国人支援の取組について英語で書かれた文章の要点を捉えることができる。

3 単元観

本単元は中学校学習指導要領外国語編「1 目標（2）読むことに示されている事項」のうち、「社会的な話題について、簡単な語や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする」に基づいている。日本に住む外国人の防災に対する意識調査の結果が紹介され、災害時の備えを話題とした対話や、日本で地震にあった外国人の体験談、日本に住んでいる外国人を対象とした防災支援の取組について英語で書かれた文章から概要や要点を読み取る。日本に住む外国人が災害時にどのような問題に直面するのかについて知り、どのように災害に備えるべきかについて、地震の経験がなく、日本語があまり分からない外国人に自分の考えや知識を簡単な英語で伝えるといった言語活動を行うことができる単元である。言語材料としては「主語＋動詞＋**what** などが始まる節（間接疑問文）」や、「現在分詞や過去分詞の形容詞としての用法」のきまりや用法を身に付けることができる。

4 生徒の実態〔第3学年1組20名〕

本校3学年には、英語で書かれた文章の概要や要点を独力で捉えることを苦手としている生徒が一定数いる。しかし、読んだ英文の内容を自分の言葉で説明したり、読んだ内容に対する自分の考えを述べたりする活動には意欲的に取り組み、読む力を伸ばそうと学習課題に向き合う姿が見られるようになってきた。ペア活動を多くし、互いに教え合ったり確認し合ったりする場面を多く設定することで、英語を読むことに対して自信がなかった生徒も少しずつ独力で読もうとする意欲が出てきている。

5 指導観

本文の内容確認の際は、英語の基礎・基本が身に付いていない生徒がいるため、重要な語句をペアで練習したり、難しい文法表現や段落の役割を確認したりするなどして、理解のために必要な事項を確認する（スキーマの指導）。その上で、防災支援の取組に関する英語についてデジタル教科書やパワーポイント等の視覚情報を提示しながら簡単な英語で説明し、生徒が理解しやすいように工夫する。True/False 問題や、英問英答などで書かれている内容を問い（事実発問の指導）、情報や概要、要点を捉えさせるように指導する。それを踏まえて、文章に書かれていることを根拠として、文章の要点を自分の言葉で説明させたり（推論発問の指導）、読み取った内容について自分ならどうするかを考えさせたりする（評価発問の指導）。こうした活動を通して生徒は何度も本文を読み込み、内容について考えることになる。それが結果的には新出語句や表現に慣れ親しむことや、文章の構成や内容を深く理解することになり、長文を読む力の向上につながると考える。

6 研究主題との関連

研究主題である「英文を正しく読み取り、自分の考えや意見を持つことができる力」を育てるために、次のような段階的な手立てで授業を展開していく。

(1) スキーマの指導

- ・文章の内容スキーマ（日本と諸外国の災害に関する知識など）に着目した指導をする。
- ・文章の形式スキーマ（間接疑問文などの新出表現や重要語句、文章構造などの知識）に着目した指導をする。

(2) 事実発問の指導

- ・日本に住んでいる外国人の地震の体験談や、防災支援の取組についての情報を正確に取り出す発問をする。True/False 問題や簡単な英問英答等を行い、書かれている事実を正確に把握することができるよう指導する。

(3) 推論発問の指導

- ・日本に住んでいる外国人の地震の体験談や、防災支援の取組についての英文を読み、筆者の主張や意図などについて考えさせる。英文中から根拠を示しながら、日本語を用いて自分の言葉で読んだ内容について説明させ、内容をより理解できるよう指導する。

(4) 評価発問の指導

- ・日本に住んでいる外国人の地震の体験談や防災支援の取組についての英文を読み、情報を自らの知識や経験に関連付けて考えたり、英文の内容に対する自分の考えを持ったりできるように指導する。級友との意見交換の場を設定し、多様な考えに触れることができるようにする。

上記のように発問を工夫した段階的な指導を継続的に行うことで、読み取りに意欲的に取り組む生徒を増やしていきたい。そして、単に読み取りに終始するのではなく、自分はどうか、自分だったらどうするかを常に自ら問い掛けながら読み進める生徒を育成したい。

7 単元の指導と評価の計画

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「主語＋動詞＋what など」で始まる節（間接疑問文）や、「現在分詞や過去分詞の形容詞としての用法」の特徴やきまりに関する事項を理解している。 〈知識〉 上記の表現を活用し、災害時の外国人の体験談や災害に備えた外国人支援の取組について書かれた文章を読み取る技能を身に付けている。〈技能〉	外国人の友人が災害に備える際に自分はどんな手助けができるかを英語で伝えるために、災害時の外国人の体験談や災害に備えた外国人支援の取組について英語で書かれた文章の要点や概要を捉え、説明することができる。	外国人の友人が災害に備える際に自分はどんな手助けができるかを英語で伝えるために、災害時の外国人の体験談や災害に備えた外国人支援の取組について英語で書かれた文章の要点や概要を捉え、説明しようとしている。

(2) 単元の全体計画（9時間扱い 本時5／9） ○学習状況の確認 ◎評価に残す評価

時	目標■・学習活動（丸数字）	評価			
		知	思	態	評価規準
1	Preview, Scene 1 ■防災に関する外国人市民意識調査の概要を捉えることができる。 ①「授業前の考え」として災害時にどのよ	○			・間接疑問文のきまりを理解することができたか、外国人市民意識調査の概要を捉えることができたかを、新出文法の練習や事

	うに助け合うことができるかの意見交換 ②間接疑問文の練習 ③新出語句などの確認（スキーマの指導） ④本文の内容理解（スキーマの指導，事実発問の指導）				実発問の指導を通して確認する。
2	Scene 2 ■防災としてどのような備えをしているか教えてほしいと依頼することができる。 ①動詞 + 人 + what などで始まる節（間接疑問文）の練習 ②新出語句などの確認（スキーマの指導） ③本文の内容理解（事実発問の指導）	○			・ 間接疑問文のきまりを理解することができたか，対話文の概要を捉えることができたかを，新出文法の練習や事実発問の指導を通して確認する。
3	Mini Activity ■歴史上の有名な人物や自分の好きな有名人などについて相手に知ってもらうために簡単な語句や文を用いて尋ねたり答えたりすることができる。 ①登場人物の対話の聞き取り ②歴史上の有名な人物の説明文の聞き取り ③有名人をテーマとした対話練習と英作文		○		・ 間接疑問文を用いて歴史上の有名な人物や自分の好きな有名人について対話することができるかどうかを確認する。
4	Read and Think 1 ■日本で地震を経験した外国人の体験談の要点を捉えることができる。 ①現在分詞の形容詞としての用法の練習 ②新出語句などの確認（スキーマの指導） ③本文の内容理解（事実発問の指導）		○		・ スキーマの指導と事実発問の指導を通して文章の要点を捉えることができるかを確認する。
5 本 時	Read and Think 1 ■日本で地震を経験した外国人の体験談を読んで要点を捉え，体験談を紹介したテレビ番組が伝えたかったことについて，根拠を示しながら自分の言葉で説明することができる。 ①前時の復習（事実発問の指導） ②文章の要点の説明（推論発問の指導） ③自分の考えを発表（評価発問の指導）		◎	◎	・ 日本で地震を経験した外国人の体験談を読み，テレビ番組が伝えたかったことについて根拠を示しながら自分の言葉で説明することができる。 ・ 地震の経験がなく，日本語が分からない外国人の友人が地震に備えるために自分はどんな手助けができるかを英語で述べることができる。
6	Read and Think 2 ■災害に備えた外国人支援の取組について書かれた文章を読んで要点を捉えることができる。 ①過去分詞の形容詞としての用法の練習 ②新出語句などの確認（スキーマの指導） ③本文の内容理解（事実発問の指導）		○		・ スキーマの指導と事実発問の指導を通して文章の要点を捉えることができるかを確認する。

7	Read and Think 2 ■ 災害に備えた外国人支援の取組について書かれた文章の概要や要点を捉え、根拠を示しながら自分の言葉で取組の内容について説明し、災害時にどのように助け合うことができるかを伝え合うことができる。 ①前時の復習（事実発問の指導） ②本文の内容理解（推論発問の指導） ③「授業後の考え」として災害時にどのように助け合うことができるか意見交換（評価発問の指導）		◎	◎	・外国人支援の取組について書かれた文章を読み、自分の言葉で文章の概要や要点を説明することができる。 ・災害時にどのように助け合うことができるかを英語で伝え合うことができる。
8	Unit Activity ■ 災害時の避難方法を示した標識を簡単な語句や文を用いて説明することができる。 ①図記号の意味の確認 ②標識が表す意味について英語で説明 ③英作文の発表		◎	◎	・災害時の避難方法を示した標識の意味を理解し、英語で説明することができる。
9	単元テスト ①災害に備えた外国人支援の取組について書かれた文章の内容を理解している。 ②外国人の友人が地震に備える際に自分ができることを英語で述べる。 ②新出文法を用いて英作文する。	◎	◎	◎	・防災について書かれた文章の概要や要点について問う問題に答えることができる。 ・外国人の友人が地震に備えるために自分ができることを英語で述べることができる。 ・新出文法を用いて英作文ができる。

8 本時の計画

(1) 目標

日本で地震を経験した外国人の体験談を読んで要点を捉え、体験談を紹介したテレビ番組が伝えたかったことについて、根拠を示しながら日本語を用いて自分の言葉で説明することができる。

(2) 本時の指導に当たって

本時は、内容理解のためのパワーポイントによる視覚教材を見せ、簡単な英語で生徒に質問しながら内容理解の復習を行う（事実発問）。その上で地震を経験した外国人の体験談を読み、体験談を放送したテレビ番組が伝えたかったことについて、文中から根拠を示しながら自分の言葉で説明させる（推論発問）。それを踏まえて、入学した高校に外国人の生徒がいると想定し、地震の経験がなく、日本語もあまり分からないその友人が地震に備える際、自分はどんな手助けができるかを英語で述べさせたい（評価発問）。評価発問の指導に際して、災害や防災に関わる語句や活用できる表現を例示することで、多くの生徒が英語だけで自分の考えを伝えることができるように指導する。日本で地震にあった外国人の体験談の読み取りを通して、生徒が自らの経験や知識を他者のために生かし、自分の考えを伝えたいと思えるような授業を展開したい。

(3) 指導過程

授業実践Ⅰの課題として、内容理解のための事実発問の指導に時間が掛かり、推論発問や評価発問の生徒の答えを授業時間内に十分共有することができなかった。授業実践Ⅱでは、本時までの授

業でスキーマの指導と事実発問の指導を十分に行い、本時で推論発問と評価発問の指導に十分な時間を取ることができるようにする。

段階	学習活動 ○主な発問・指示 ◆予想される生徒の反応	形態	指導上の留意点	評価
導入 5分	1 挨拶をする。 2 前時に学習した新出語句をペアで復習する。	一斉 ペア		
展開 40分	3 本時の目標を確認する。 ○What did the TV program want to say about the case 1 and case 2? Please explain in your words. (このテレビ番組が視聴者に伝えたかったことは何でしょうか。ケース1, ケース2それぞれについて自分の言葉で説明しよう。) 4 パワーポイントを見せ、事実発問や簡単な推論発問を通して英語でやり取りをしながら体験談の要点について確認する。 5 推論発問について考える。 ○What did the TV program want to say about the case 1 and case 2? Please explain in your words. ◆ケース1: 日本在住の外国人でも、地震が起きた時にどこに避難すればよいか分からず、困ってしまう場合がある。We didn't know where to go とか, we spoke to a police officer passing by. He guided us to the local shelter. I didn't know about it until then.と書いてある。 ◆ケース2: 日本では地震が発生した時、災害情報が全て日本語で、日本語が分からない外国人はどうしたらいいか分からない場合がある。The announcements at the station were in Japanese. We looked on the internet, but all the latest information there was in Japanese, too.と書いてある。 6 評価発問について考える。 ○Imagine you are a high school student. You have some friends from foreign countries in your class. They don't have a lot of experiences of earthquakes in Japan. They are not good at Japanese. What can you do to	一斉 個別 ペア 一斉 個別	◎英語で中心発問を尋ねた後、全体でどんな意味かを確認し、目標の確認をする。 ◎生徒の様子を見ながら発問を進め、必要に応じてペアで確認する場面を持つ。 ◎個別に考える時間を取ってから、ペアで意見交換させる。その後全体で意見を発表させる。 ◎机間支援を行い、個別支援を行う。 ◎なぜそう考えたのか、本文中から根拠を見つけて言わせるようにする。 ◎まず英語で発問し、何を尋ねているか全体で確認する。 ◎解答の際に活用できる文法表現などを例示する。 ◎個別に考える時間を取ってから、ペアで意見交換させ	ワークシート ワークシート

	help them prepare for earthquakes?（皆さんは高校生です。クラスには外国から来ているクラスメイトがいます。彼らは日本での地震の経験が多くなく、日本語もあまり分かりません。友人が地震に備えるのを手助けするためにどんなことができますか。） ◆I can give them a local map. They will know where the local shelter is.	ペ ア 一 斉	る。 ◎個人で1文以上の英文を考える。その後全体で意見を発表させる。 ◎個別支援を行う。 ◎多面的な意見が出るように意図的に生徒を指名する。	
終 結 5 分	7 振り返り	個 別	◎ケース1と2の内容の要点を読み取り、自分の言葉で説明できたかどうかを振り返らせる。	

(4) 本時の評価

評価	十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	努力を要する (C)
思考・判断・表現	日本で地震を経験した外国人の体験談の要点を捉え、テレビ番組が伝えたかったことについて、ケース1とケース2の両方とも根拠を示しながら説明することができる。	日本で地震を経験した外国人の体験談の要点を捉え、テレビ番組が伝えたかったことについて、ケース1とケース2のいずれかを根拠を示しながら説明することができる。	教科書本文の内容を個別に確認したり、級友の説明を聞いたりすることで、理解した内容を自分の言葉で説明することができる。
主体的に学習に取り組む態度	日本で地震を経験した外国人の体験談の要点を捉え、テレビ番組が伝えたかったことについて、ケース1とケース2の両方とも根拠を示しながら説明しようとしている。	日本で地震を経験した外国人の体験談の要点を捉え、テレビ番組が伝えたかったことについて、ケース1とケース2のいずれかを根拠を示しながら説明しようとしている。	教科書本文の内容を個別に確認したり、級友の説明を聞いたりすることで、理解した内容を自分の言葉で説明しようとしている。

(5) 準備物

- ①教師：教科書，パソコン，電子黒板，ワークシート
 ②生徒：教科書，ノート，ファイル，辞書

(6) 板書計画

今日の目標	Answer the following question Q1: What did the TV program want to say about the case 1 and case 2? Please explain in your words. Q2: Imagine you are a high school student. You have some friends from foreign countries in your class. They don't have a lot of experiences of earthquakes in Japan. They are not good at Japanese. What can you do to help them prepare for earthquakes?
--------------	---